

ブラジルが風力発電の入札に新規則を適用； 今後の導入拡大にブレーキが¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

ブラジルでは、近年急拡大を続けてきた風力発電産業にブレーキをかける可能性のある新たな規則が適用されようとしている。

Bloomberg などが報じたところによると、4月にブラジル鉱山・エネルギー省は、今年実施する電力オークションに新たな規則を適用する方針を示した²。詳細に関する情報は乏しいが、風力発電に関連した変更点の概要をまとめると以下の通りである：(1) 排出ガス抑制のために 2009 年以来凍結されていた新規石炭火力発電プロジェクトの入札参加が解禁される。また、天然ガス・石炭火力発電と風力発電の入札は別枠扱いとなる；(2) 風力開発会社は設備投資を増やし、新規風力ファームの発電容量を最大 15%増やすよう義務づけられる；(3) 風力開発会社は自社の風力ファームを自力で送電網に連系するか、または既存送電線の近くに風車を設置しなければならない³。

新たな規則は、化石燃料を用いる発電所の建設を増やすことによって電力の安定供給をはかると同時に、風力発電に対しては送電網への連系と設備容量の拡大によって供給力の増加に貢献するよう求めている。

背景には、不安定な電力供給への懸念がある。ブラジルは昨年、過去 50 年間で最悪の干ばつを経験した。国は電力の 81%を水力発電でまかなっており、ダムは枯渇は大規模な停電につながりかねない。そのため、政府は水力や風力など天候に左右される再生可能エネルギーへの依存を見直している⁴。現在、ブラジルの風力発電価格は世界一安く⁵、天然ガスや石炭火力とも競合している⁶ため、在来電力は風力と同枠の入札において落札が難しくなっている⁷。この状況を是正することも、変更の目的の一つと思われる。

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² 新しい規則は、8月23日に予定されている政府主催の次期「A3」オークションに適用される。

³ 送電網への連系はこれまで、電力会社が行なってきた。

⁴ 風力発電の比率は2%だが、水力発電を補完する役割を果たしている。近年風力の導入はめざましく、2013年の風力発電容量は昨年の2倍以上の6,000MWに達する見通しである。

⁵ 2012年12月のオークションでは、風力発電による電力の落札価格は世界の過去最安値である1メガワット時当たり平均87.94リアル（42.16ドル）であった。

⁶ 2011年8月に風力の平均価格（62ドル/MWh）は初めて天然ガス価格（65ドル/MWh）を下回った。

⁷ 2011年以降の電力オークションでは、風力プロジェクトが落札した発電容量は全体の55%を占めた。

今回の変更は様々な影響を及ぼすと考えられる。まず、風力発電コストの上昇である。送電網連系の費用負担によって、プロジェクト全体のコストは約 10% 上昇すると、ブラジルの電力規制機関 (ANEEL) は予想している。一方、設備投資の追加負担も風力発電コストを最大 15% 押し上げると、業界関係者は予測する。これらの新たな費用負担によって入札企業の数が大幅に減り、プロジェクトを断念する開発会社も出てくる可能性がある。また、ガス・石炭火力を別枠で優先的に扱うことによって、今年の化石燃料による電力の売電契約量は 50% 増加し、1,500MW に達する可能性がある。対照的に、風力の売電契約量は 2011 年比で 3 分の 2 減少し、1,000MW 未満に落ちこむと調査機関は推定している。

ブラジルは 2014 年サッカー W 杯大会と 2016 年のオリンピック開催に向け、発電容量の拡大を急ピッチで進めている。電力政策は世論の動向を敏感に反映するが、折しもサンパウロやリオデジャネイロでは最近、W 杯の開催や交通機関の料金値上げなどに反対する大規模なデモが頻発している。これまで順調な発展を続けてきた風力発電産業を抑制し、コスト面での優位性が低下している在来電力を増やす政策が、今後の電力受給にどのような影響を及ぼすのか注視したい。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp